

## 個人差に応じて基礎・基本の定着を図る指導のあり方に関する研究(Ⅱ)

—— 学級内で行う「習熟の程度に応じた学習」の内容・方法 ——

教育振興室 谷村 龍典・又木 俊明・細川 克寿

【キーワード】 教育方法 基礎・基本の定着 個人差 習熟の程度に応じた学習 問題解決の能力

### 研究の概要

本研究では、まず、「習熟の程度に応じた学習」の概念整理を行い、推進上の留意点及び授業設計の手順等を明らかにした。次に、それをもとに、小学校理科および中学校数学科において、学級内で行う「習熟の程度に応じた学習」を実施し、その成果を学習記録等により把握し、検討した。

### 「習熟の程度に応じた学習」推進上の留意点

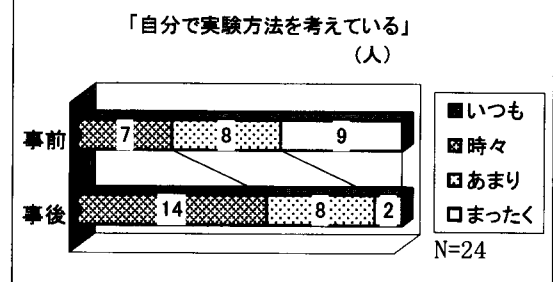
- 「習熟の程度に応じた学習」とは、「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という児童生徒の願いに応える学習であることを理解し、その実現に向けて指導内容・方法を工夫する。
- 学習形態には、少人数の学習集団だけでなく、児童生徒一人一人の学びの履歴に応じた個別学習も含まれることも視野に入れ、そのあり方を考慮する。
- 少人数の学習集団を編成するにあたっては、児童生徒が自らの学習状況を振り返り、自分で選択・決定できるようにする。
- 学習目標に対する到達度や学習状況などを的確に把握し、それを学習活動の軌道修正や指導の方向付けに生かせる評価の内容・方法を工夫する。
- 学習の目的と方法の説明及び学習の途中経過や成果の報告を行い、保護者の理解と協力を得る。

### 〈授業の成果〉

#### ◇小学校理科（第6学年 単元「水溶液の性質」）

診断的評価や形成的評価の結果をもとにして学習過程に既習事項の補充的な内容を組み入れたり、単元の終末に補充的・発展的な学習内容を組み入れたりして授業実践した。その結果、児童は自然事象についての知識・理解を深めたり、観察・実験の技能を習得したりして、基礎的・基本的な学習内容を身に付けた。また、単元末には一人で実験できるほどに問題解決の能力を高めた。さらに、学習後には、理科が「好き」「わかる」「できる」という肯定的な反応を示す児童が増え、次の学習への期待感を高めた。

#### 理科の学び方に対する意識の変容（一例）



#### ◇中学校数学科（第1学年 領域「数と式」）

学年における全単元の学習終了後に、生徒の自己選択・決定によって習熟の程度に応じた学習集団を編成して「学級内コース別学習」を行った。その結果、生徒は自己の学習課題の克服をめざして集中して学習に取り組み、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けた。そして、多くの生徒が自分に合った学習内容・方法、学習速度による「コース別学習」の継続を強く要望した。